

## 2024年度 第1回但馬定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録（要旨）

日 時 2024年8月22日（木） 13:45 ～ 14:45  
場 所 豊岡市役所3階 庁議室  
出席者 10名中7名  
事務局 豊岡市（市長公室長、経営企画課長、経営企画課長補佐、経営企画課主任）  
関係市町 養父市（経営政策・国家戦略特区課）  
朝来市（総合政策課）  
香美町（企画課）  
新温泉町（企画課）  
オブザーバー 兵庫県但馬県民局、兵庫県市町振興課

### ◎報告事項

会長 まず、報告事項の「(1) 定住自立圏構想について」、事務局から説明をお願いします。  
ます。

<事務局より、定住自立圏構想について説明>

会長 事務局の説明内容につきまして、ご意見やご質問等がありましたらお出しただきたいと思います。

（特に意見・質問等なし）

特にないようですので、続きまして報告事項の「第3次共生ビジョンの達成状況について」、事務局から説明をお願いします。

<事務局より、第3次共生ビジョンの達成状況について説明>

会長 説明内容につき、ご質問等がありましたらお尋ねいただきたいと思いますが、ご質問やご意見はありませんでしょうか。

（特に意見・質問等なし）

それでは、続きまして次第の6番目の協議事項に入らせていただきます。

### ◎協議事項

会長 事務局から第3次共生ビジョンの変更について説明していただいた後、それぞれにご意見を伺いたいと思いますのでよろしくをお願いします。

それでは事務局より説明をお願いします。

<事務局より、第3次共生ビジョンの変更について説明>

会長 第3次共生ビジョンの変更について、質問等がありましたらお出しただきたいと思います。ご意見・ご質問はありませんでしょうか。

この共生ビジョンの内容変更にあたっては、この懇談会が協議・懇談の場となっ

ており、この場で内容の検討を経ていく必要があります。皆さんは各分野からご選出いただいておりますので、その分野の内容でもそれ以外でも結構ですので、将来的に取組みが必要だと思われるようなことがありましたらご意見を頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。

A 委員

日高医療センターが診療所化されたことで、入院患者の受入れが今できていない状況です。八鹿病院では受け入れるような体制づくりの状況にありまして、できる限りのことはしたいということです。

小児救急医療電話相談の時間が拡大されていますが、小児科への電話相談というのが非常にたくさんありますので、こちらの電話相談を住民の方に活用いただきたく、広報していこうということで取組みを今考えています。但馬県民局でも「#8000」の小児救急医療電話相談の広報をされていて、24時間電話相談を行っているのですが件数が少ないので、活用がまた増えればと期待しています。

C 委員

報告いただいた件や変更箇所については特に何もありませんが、但馬の公共交通の現状と課題についてお話をさせていただきます。

ご存じのとおり、この9月に北近畿豊岡自動車道（の延伸区間）が開通します。これによって豊岡と阪神地域がかなり短距離で結ばれることになりまして、私も高速バスを運行する計画の中で、これをうまい具合に利用したらどうかと検討しているところですし、バイパス云々といった話もありますので、城崎温泉－大阪間が2時間半で結ばれるようになると期待しているところです。但馬管内の公共交通体系が大きく変わってくるような予感を抱かせるものであることと、JR等とも関連性があります。

陸上交通は鉄道やバス、タクシー、自家用有償運送、福祉輸送といろいろな形態があるわけですが、今はそれぞれがバラバラで連携があまり取れていないような中で運営しており、利便性の問題や利用促進もなかなか向上が進んでいない状況でして、それぞれの特性や強み・弱みを理解した中で、共通しているような但馬全域での体制をとということで今協議が進んでいるところでもあります。

この共生ビジョンの数値で問題となってくるのは、もっぱら全国的にも報道されている運転手不足、これが非常に大きな問題です。特に学校関係の方は、ここ数年で小中学校の統合が進んでいるのに合わせて、スクールバスという形での輸送が計画されて、それぞれの教育委員会や交通担当部署からの依頼が出ているわけなのですが、申し上げたようになかなか運転手に対応できないことにより、スクールバス単体では運行ができないということで、路線バスのダイヤにスクールダイヤを組み込むことでやり繰りをしていて、ご迷惑をおかけしているようなところもあります。そうすると、路線の運営補助金の額がそういったスクールダイヤとの絡みもあって変動してくる可能性も出てくるということをご承知いただければと思います。

E 委員

先ほど大阪までの時間が短縮されるという話がありましたが、私は豊岡病院からの流出が増えないかなと思っていて、あまり便が良すぎると豊岡病院の患者さんが京阪神に流出する可能性がゼロではないなという思いがあります。そのあた

りもいろいろな面で考えられると良いのではないかと思います。

会長

ありがとうございました。

先ほど専門職大学の卒業生が出始めるという話がありましたが、学生からの希望や要望とか、但馬はこうあるべきだというような気持ちを聞かれています。G委員からお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

G委員

今のところの1期生の進路の状況ですが、本学は芸術文化系と観光系ということで、最終的には学士の卒業認定は二種類に分かれるということもあって、就職先としては少し違った傾向が出る格好になります。観光系に関しては旅行大手企業や、テーマパークなどに就職する学生も何人か出てきています。それから、ホテル関係などもあります。全国から学生が集まってきているということもあって、自分の地元に戻りたいという学生も一定数いるんですね。なので、地元のDMOのようところに就職する学生もいます。

芸術系の学生については、いわゆる俳優や芸能事務所に所属するという希望を持っている学生もいます。それを就職と言うのかというと微妙ですが、そういった学生も一定数います。一方で、全国にある文化ホールや公共ホールのマネジメントや運営に携わりたいという学生もいますが、全国にかなりの公共ホールがあるものの、定期的には正規職員の採用が必ずあるというわけではなく、少人数のところに入っていかねばならないという問題があったり、一般企業に比べると就職の動きが年度末のほうにあって遅いというようなことがあったりする。まだ確定していない学生も結構いるということです。大学側としてはやきもきするような状況もあるのですが、もともとそういったことを志望している学生をうまくマッチングできるように、先生方も全国に情報収集しながらマッチングを図っているという状況です。それから、地元に戻りたいという学生の中には公務員を志望している学生もいますので、そこもまだ確定はしていないので、まだまだ流動的な学生が多いというのが現状です。

そういう中で、間接的に聞いている話では、やはり臨地実習やサークル活動などで地域の方と接する機会が非常に多い学生もいますので、そういう人的ネットワークが一定程度できている学生の中には、但馬地域で就職や定住に向けたことを考えているという声は聞きます。そういった学生はイベントの企画のようなことをしたいという希望を持った方が多いです。実際に今でもサークル活動などを中心に地域のイベントなどに参画するようなことができればという思いを持っている学生の話も聞きます。ただ、そういう就職先というのはなかなかこのエリアには少ないという印象を学生も持っていて、そういうのがあれば良いのという声はよく聞きます。なので、地元企業はたくさんあるのですが、地元の企業と本学学生のマッチングというのがなかなか難しい部分があるなというのが、今私を感じているところです。

会長

求人はありますか。

G委員

求人はたくさん来ていますが、極端な言い方をしますと製造業などの企業の情報が来ても、なかなかそういうところに就職したいという学生は、本学にはあまり

いないというのが現状です。

B 委員 (資料4の新旧対照表の中の)山陰海岸ジオパークのところに香美町の名前が入っていないのですが。

事務局 大変失礼しました。表示のミスで養父市と朝来市となっていますが、正しくは香美町と新温泉町となります。新旧対照表ではこのようになっていますが、計画本体のほうでは香美町と新温泉町としております。

B 委員 昨日、香美町でも地域交通の会議があったのですが、行政と全但バスさんが非常に協力してやっておられるのですが、全但バスさんは比較的乗務員の数が少ないと。今、白ナンバーでの取組みがあるというのも聞きましたので、ある種、Uber的な要素が入ってくるのではないかと思っています。

地域交通では、我々はJRの問題が非常に気になっていて、城崎温泉駅までは電化されているので非常に便利ですが、城崎温泉以西の浜坂・鳥取までの区間が大変な赤字で、全体的にも赤字なんでしょうけど、便数が減らされてきていると感じています。具体的な例を申しますと、香住駅の朝の上りの便が、9時台の便が廃止になったので、8時半から10時50分くらいまで空白なんです。登りでは、6時台の便は学生が乗るので一番利用者数が多いのですが、廃止された9時台というのが、観光客が帰る便だったので二番目に利用者数が多かったんですね。城崎温泉や豊岡で特急に乗り換えるのに利用されていた便が廃止されてしまったということで、JRさんにもいろいろとお願いはしているのですが、なかなかダイヤの改正というのは難しいと。それに対してバス輸送を考えるということもあるのですが、行政も、町長は特にあまり刺激してJRが廃線になっては困るので、そういう点はあまり触れないでほしいと言っています。「定住自立」という面では、交通の便が非常に悪いということに危機感を感じていて、豊岡市はバスがたくさん走っていますが、ほかの地域ではバスの乗務員が充足しているのかどうかを知りたいですね。

C 委員 先ほども乗務員不足について申し上げましたが、現状、通常の業務に対して40人から50人くらいの乗務員が不足しているのが実態です。それから、ご承知のとおり4月から労働時間等の基準が改められまして、輪をかけて厳しい状況となっています。ただ、様々な交通形態がありまして、「ライドシェア」という言葉で報道もされていますが、普通免許の方が白ナンバーで有償運送を行うというスキームもありますので、二種免許の正式な運転手は幹線系統の運転や高速バス、貸切りバスの運転に傾注して、ローカルのところにそういう自家用有償的な白ナンバーの運転手を配置するという、そういったすみ分けも将来的には視野に入れて検討するというのを我々も考えています。但馬の人口、とりわけ生産労働人口が減っていく中で、今から大型の二種免許を持った方を増やすというのはまず不可能だと、ハローワークも実際に判断して考えていますので、それに対応するためには、先ほど申し上げたように普通免許で有償運送を行えるようなスキームをとということで、今まさに国交省のほうでもそういう形で検討しているところですので、そういったあたりで但馬だけでなく全国的に交通形態が変わってくるような時代になるのではないかと考えています。

会長

ありがとうございました。

本日はオブザーバーとして兵庫県からも同席いただいておりますので、代表して県民局から一言お願いいたします。

県民局

取り組まれている施策の分野の関係で、県の動きなども含めてコメントさせていただきたいと思います。

この定住自立圏共生ビジョンは、但馬のみならず兵庫県でも日本全体でも人口が減っているという中で、いかにその減少を急速に進ませず鈍化させながら取り組みを進めていけるかということで、全国で取り組まれていると思っています。

但馬のビジョンの中で挙げられている取り組みとしては、一つ目の医療の面ですね。豊岡病院さんや八鹿病院さんを中心に但馬の医療体制の確保をしていただいているところですが、医師の数が若干目標に届かなかったということでしたが、全县ベースで見ますと、必ずしも但馬の医師数が極端に少ないというわけではありません。ただ、今後当然高齢化が進んでいく中で、個人の開業医が減少していくということが見込まれるということになるかと思っています。従いまして、中核病院に求められる役割というの、そういった状況に合わせて変わってくるのではないかと考えていますので、県としては豊岡健康福祉事務所が調整役となって、但馬圏域の健康福祉推進協議会ということで医療関係者の皆様と今後の体制確保のあり方について進めさせていただいております。今後もそのあたりの動きを踏まえたうえで取り組んでいただければと思います。

芸術文化観光専門職大学との連携につきましては、但馬地域の教育機会の確保ということ以上に、但馬外から若い方が集まって観光施策や地域づくり、演劇を通じたまちづくりといった部分で、非常に大きな貢献をしていただいているのではないかと思います。先ほど就職先等の話もありましたが、定住を促進するといった取り組みについて専門職大学の学生や教員の方々それぞれに、非常に大きな貢献をしていただける中身があるかと思っていますので、連携した取り組みをより一層抽出、展開していただけたらと思います。

産業面については、7月に山陰海岸ジオパークの継続認定のための現地調査が終了しまして、我々としては感触は良かったと思っていますところですが、結果発表は来月(9月)くらいということで、グリーンの認定が頂けることを期待しているところです。

観光の面では、城崎温泉がインバウンドを中心にコロナ禍前くらいまで回復してきているということですので、この効果が但馬全体に広がっていくような取り組みの展開が、より一層必要になってくるのではないかと考えています。それから、来年度は万博がいよいよ開催されるということで、兵庫県としては「フィールドパビリオン」という取り組みを進めさせていただいております。但馬全体では39のフィールドパビリオンが認定されているということで、県民局単位では県内で最も多い数が認定されているということで、但馬の地元の方には非常に積極的に取り組んでいただいているのかなと思います。来年度は、実際に万博にいらっしゃる多くの方々をいかに但馬に誘致していくのかという話になるかと思いますが、私たち

としては万博終了後、今回の万博を契機に取組みを積極的に進めていただき、フィールドパビリオンの方々に但馬の中でより一層連携していただいて、一企業や団体だけのイベントということではなく、但馬全体の地域づくりに貢献する息の長い取組みとして継続的な支援をしていきたいと思っていますので、フィールドパビリオンで中心になって活動されている方々と、何か観光面で有効な取組みを進められるような展開を考えていただくのも一つの方策ではないかと思っています。

有害鳥獣の関係では、シカの頭数が美方郡の方は県下でもかなり多いということで、7月からは県民局でも新たに独自の捕獲事業を始めたところです。最近では城崎などでクマの目撃情報がちらほらと出てきていますので、農林事務所のほうでも目的意識を持って対策の強化を検討しているところですので、また各市町と連携しながら対策を進めていきたいと考えています。

防災における相互応援体制の部分の取組みがまだ進んでいないというお話を伺いましたが、今年の1月には能登で地震があって、この地域でも津波警報が出るということがありました。また、来年は北但大震災から100年ですし、阪神・淡路大震災からは30年ということで節目の年なのかなと思います。9月には養父市で全県の防災訓練も実施するということですが、県民局としては、但馬地域は耐震基準を満たしていないような住宅がかなり多いということもあって、住宅の耐震化の取組みを進めていきたいと考えていますので、そのお話をさせていただくに当たり、今年は各市町の関係部局との連絡会議も設けさせていただきましたので、今後の相互応援体制の強化に係る相談や協議を進められるということであれば、そのような連絡会議の場も活用いただければと思います。

最後に、先ほどからお話が出ています地域交通の関係です。平成18年くらいから、鉄道の利便性向上対策協議会という取組みを但馬全域でやってきたわけなのですが、令和4年度にJRさんから赤字路線の問題提起を受けまして、県でローカル路線維持の利用促進協議会というのを立ち上げて、但馬では山陰本線と播但線のあり方に関して、県全体としても検討を進めてきたところです。先ほどC委員からもお話がありましたが、JRだけではなくて当然自家用車の利用やバスなども含めた地域交通のあり方についての検討を進めているところです。大きく形を変えるような検討案というのも出てきていますので、そういった部分を皆さんと一緒に前に進めていきたいと思っています。

いずれにしても、人口が増え経済も右肩上がりという情勢とは正反対の、人口が減っていく中でどう維持していくか、但馬への定住を進めるかという取組みをやっていくこととなりますので、これまでとは全く違った発想というのが我々としても皆に必要なのではないかと思いますので、皆様方それぞれで知恵を出し合っ、この定住自立圏共生ビジョンで目指す目標が達成できれば非常にありがたいと思っています。県民局でも一緒になって取り組んでいきたいと思っていますのでどうぞよろしくお願ひします。

会長

ありがとうございました。

ほかにご意見はありませんでしょうか。

E 委員

私はどちらかという住民に近い組織にいるわけですが、高校生などは特にJRやバスを利用する頻度が高いと。朝は別に問題はないのですが、部活が終わったり学校が早く終わったりした時間では、非常に待ち時間が長いわけです。居場所も意外となくて、高校生はとにかく困っている。高校生はそこで大体話が終わってしまうのですが、先日もある会で、高校生にとって一番便利の良い時間はどれなんだという、一度そういった課題の考え方をしてはどうかという話もさせていただきました。待ち時間が長いのも非常に無駄だということで、自分にとって一番都合の良い時間はどれなんだということも、高校生として考えるべきではないかと。居場所についてはやはり地域が受け止めなくてはならない問題で、地域で解決できる問題もあるでしょうが、行政も含めてしっかり取り組んでいただかなければならないと思います。

それから、医療の問題も地域からよく出るのですが、「かかりつけ医ってなんですか」という話があるんですね。私は「内科ではないか」というふうに言うのですが、かかりつけ医というのは内科を総合的に診るので、豊岡病院の医師でもどの先生が不足なのかということも聞いてみたいと思います。

移住についても地域からよく出る話で、移住者に対してのメリットが全然ないのではないかと。例えば、住民税を10年タダにするとか、単純な話としてですがそんな話が出てきたり、ある人は移住してきて古民家を改装したりして非常にお金がかかるので、ほかのメリットも一緒に付けてほしいと。そういったことで考え方が変わってくるのではないかとということで、移住者についてもしっかりとしたメリットを付けるべきではないかという意見が、住民の間からは上がっています。

それからバスの件ですが、最近朝来市でもデマンドバスというのがすでに始まっていて、10月からは本格運行が開始されますが、それは二種免許がなくてもできるんですね。そんなことを進める中で行政自身も非常に大きく前進していくので、地域住民としてはどう応えていくのかという課題も含めて、地域として努力していく必要があると思っています。

会長

ありがとうございました。

ご意見を伺いましたが、そのほかにもありませんでしょうか。

(特に意見等なし)

ないようでしたら、協議事項はこれで終了させていただきたいと思います。この後の進行につきましては事務局をお願いします。

<事務局より、第3次共生ビジョン変更のスケジュールについて説明>

◎閉会